緊急提言

短期集中連載

ホール営業徹底改善

ゴト対策・内部不正セキュリティは本当に万全か？

大都販売の下村和義氏による新しいホール営業の提案の第2回目。今回は、年間被害総額が数百億円といわれるゴトと戦うための最新ホールセキュリティ技術について、外部セキュリティ（社外の人間に対するセキュリティ）と内部セキュリティ（社内不正に対するセキュリティ）の対策を具体的な事例を交えて提案する。

文＝下村和義（大都販売）

外部セキュリティ

頻度の概念を取り入れたソフトセキュリティ

ここ1年のゴト事例を集計してみると、パチンコのローテクゴトの犯例が急増しています。

従来からこの手のローテクゴトはデータを見れば検知できるため、ホールコンピュータメーカー各社は10年も前から、一定アウト毎にベースなどを監視するソフトセキュリティという機能を提供しています。しかし、一見有効そうなこの機能が、ホールの現場ではほとんど活用されていません。それは、何故でしょうか？簡単に言うと、誤検出が多いためです。

一例として釘曲げゴトに焦点を絞って考えてみましょう。

まず、その手口について考えてみます。この釘曲げゴトは、ピアノ線やセルなどを用いて釘を曲げ、継続的にゴト行為を行います。つまり、**この継続して発生している点**がポイントです。

次に誤検出の理由を挙げてみると

①アウトBOXの流れが悪い。

②たまたま連続的に入賞し、設定ベース値を超えてしまう。

上記①、②に見られるような理由は、すべて継続性がない現象です。つまり、いくらCPメーカーが遊技台の適正なセキュリティ値を提供しても警報の信頼性が向上しないのは、誤警報とゴトとの本質的な違いが考慮されていないためです。この連続する異常値を検出する新しい理論が頻度の概念です。

最新のホールコンピュータでは、この『頻度の概念』を採用したソフトセキュリティを提供しています【図表1参照】。このような最新のセキュリティ機能を活用し、信頼性のある警報によって必ず従業員が目視するホール環境を構築する事で、ローテクゴトを防止することが出来るようになります。

変化するゴトへの対応

次に昨年末、九州で発覚後急速に全国へ広まった遊技台の賞球BOXを誤動作させるゴトへの対策を紹介します。

このゴトは一部のメーカーの枠に対するゴトとして片付けられてしまった感もありますが、他メーカーでも同様のゴトの事例が挙がっています。

このゴトには、対策品をメーカーが提供している場合もありますがそうでない遊技機でも実は営業中に発見するデータ監視方法があります。かつて現金機の時代に、賞球信号の代わりに取得していた補給カウンタの信号を活用する方法です。

この方法では、遊技台へ補給した信号とCR機の賞球信号を比較することで、遊技台の信号以上に補給されていないか確認する事が出来ます。弊社ではこの監視項目を『賞球誤差』と呼んでいます。

この項目は単にゴトだけに有効な手段という訳ではなく、ほかの設備異常も含めた誤差玉の要因調査としても活用できます。【図表2参照】

しもむら・かずよし
1973年東京生まれ。1996年大都販売㈱入社。パーラー管理コンピュータの販売促進、顧客支援を推進するカスタマーSE課課長代理。

〔図表1〕頻度の概念を採用したソフトセキュリティ

No.	実施	設定内容	設定値			
5	☑	通常時α異常	通常打玉	500	毎のαが	40	を超えた
7	☑	Kα異常	確実打玉	500	毎のKαが	120	を超えた
8	☑	ST異常	通常打玉	500	毎のSTが	50	を超えた

	異常名称	警報レベル	履歴保存	カメラ連動	音声放送	インカム	蛍光ランプ
6	通常時α異常	1：注意	1：する	3 3回以上	5 5回以上	3 3回以上	5 5回以上
7	Kα異常	1：注意	1：する	3 3回以上	5 5回以上	3 3回以上	5 5回以上
8	ST異常	1：注意	1：する	3 3回以上	5 5回以上	3 3回以上	5 5回以上

例えば、3回連続してベース異常が発生した段階で、インカムに警報を出力し、台の目視チェックを行い、さらに5回連続した段階で、押しボタンを威嚇発報させるなど、頻度に応じてアクションを起こす事ができます。

〔図表2〕賞球誤差セキュリティ

群1別　群2別　グループ別　島別　機種別　ゲーム別　表示内容　平均　合計　表示方法　リスト

ゲーム別：パチンコ

	賞球誤差	打玉	差玉	P回
162番台	-50	45,560	6,760	14
163番台	-20	37,580	-23,890	30
164番台	30	43,920	21,880	7
165番台	20	47,300	3,170	17
166番台	50	38,070	9,990	11
167番台	2,060	43,230	8,900	13
168番台	110	29,950	960	13

「賞球誤差」は、±300以内（遊技台補給受け皿容量分）を許容範囲とし、それ以上は異常値としてオペレーションチェックを行うように、指導しています。

内部セキュリティ

魔が差さないシステムの構築

セキュリティで一番難しい問題が『内部セキュリティ』です。従業員を信頼できない企業に大きな躍進は無いでしょう。しかし、信頼できる大切な仲間を失わないためにも『魔が差さないシステムの構築』が必要です。そのためには、一つの結果に対して、何時、どこで、誰が、何をしたかが確認できる体制があれば良いのです。

そこでご紹介したいのは、映像とホールコンピュータを融合した『ビジュアルセキュリティ』です。

金銭系機器のドアの開閉から、POS取引や遊技台の異常まで、昼夜を問わずホール内すべての管理機器情報がホールコンピュータに集約されています。

この管理機器情報と映像をリンクさせ、**誰でも手軽に確認できる環境**を作ることが、『魔が差さないシステム』の実現に繋がっていくのです。

これからのセキュリティ『情報提供端子板』

次に全国発売が開始された全日遊連の『情報提供端子板』についてご紹介します。この情報提供端子板は、設定変更、セレクター、ホッパー、ドア開閉の4つのセキュリティ信号を出力することができ、かつ従来と比べ1／10以下の費用で構築できます。

この情報提供端子板の重要なポイントは、設定漏洩セキュリティに活用できる点です。先に述べたビジュアルセキュリティと組み合わせることで、何時、どの台で誰が設定変更したかということを映像と共に記録し、本部機関にて監査を行うことによって、ハイレベルなセキュリティを実現することが出来ます。

また、設定値を決める営業コントロール管理者と、どの遊技台へ設定を割り振りするかを決める設定入力管理者を分業化し、ローテーションさせ、更に高い相互セキュリティの構築を目指すのです。

残念ながら現状では、この基板に適合する機種がまだ数機種程度しかなく、このようなセキュリティは、すぐには構築出来ません。しかし、今後保通協を通る5号機は順次対応することになるので、近い将来本格的に活用ができるようになります。

貴店でお使いのホールコンピュータが、この情報端子板に対応できるかどうか把握しておく必要があるでしょう。

ここまで、数々の最新のセキュリティ技術をご紹介しましたが、最終的には人の意識の問題です。どんなに優れたシステムを導入しても、それを活用する企業の意識が低ければ何の意味もありません。

ぜひ、読者の皆さんも自社システムの機能を把握し、セキュリティを更に高める工夫の余地が本当にないかどうか一度見つめ直してみて下さい。その過程を経ることで、必ずセキュリティ意識が高まり、今回ご紹介したような人とシステムが融合したセキュリティを構築できると思います。

本連載の最後となる次号では、顧客管理について提案します。 AJ